

書名		新編 新しい国語		2
項目		東 書		
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<p>○目次の中に、「基礎編・資料編」が明示されていて、国語学習の復習や発展的な学習へも対応できるようになっている。</p> <p>○領域別の一覧もあり、国語科の「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の観点に応じて、「この教材で、どのような学習活動をして、どのような力を身に付けるのか」が示されている。</p>		
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○教材ごとに「てびき」を設定して、基礎基本の定着を図るとともに、「たすけ」があり、発展的な学習にも対応している。</p> <p>○各単元の「学びの扉」と巻末の「学びを支える言葉の力」が連動しており、基礎的な学習事項を確認できるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「伝え合う」を意識した言語活動が設定されていて、生徒同士の交流として発表・話し合いを通して、それぞれが深められるように工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○巻頭に、全体の構成や「学習の進め方・教科書の使い方」が見開き・図入りで具体的に示されている。</p> <p>○「読書案内」もカラーで表紙が印刷され、本文中の一部が紹介されている。</p> <p>○漢字の学習のページでは、直接記入できるようになっている。</p> <p><言語感覚を豊かにする工夫></p> <p>○「広がる言葉」や「日本語探検」が、コラム的に適度に散りばめられている。</p> <p>○脚注の新出漢字や語句の意味が、大きく掲載されている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○伝統的な言語文化に関わる教材として、様々な古典作品を掲載し、1学年の古典作品に「古事記・源氏物語・浦島太郎」等の多くの作品が掲載されている。</p>		
	資料	<p>○巻頭の「学習の進め方・教科書の使い方」「これからの1年間で学ぶこと」が示されている。</p> <p>○巻末の資料編の「言葉を広げよう」では、活用例が短文で示され、「新出漢字一覧」では、筆順と多くの熟語が示されている。</p> <p>○各単元のごとの扉の写真を含め、図や表、挿絵や写真が多く使われている。</p>		
	表記・表現	<p>○読み物単位には、脚注に「新出漢字」や「難語句」の意味が記されている。</p> <p>○単元の合間に「広がる言葉」や「広がる漢字」、「問題」等が配置され、ワークのようにも活用できる。</p> <p>○挿絵に版画や墨絵を使っている。</p>		
総括		<p>○3学年とも、本編・7つの単元と基礎編・資料編で構成されている。</p> <p>○教材ごとに、生徒が身に付けたい知識・技能のポイントを「言葉の力」で示して、3年間で積み上げるようになっている。</p> <p>○「学びを支える言葉の力」で、他教科との学習とのつながりや生活とのつながりを意識している。</p> <p>○「読むこと」については、「てびき」に「読みとる」、「考えを深める」の2段階の課題が示されている。</p>		

書名		現代の国語	15 三省堂
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○本編と資料編の2部構成である。</p> <p>○学習の系統性を図った教材が配置され、学習意欲の喚起と確かな言葉の力の育成のために、関連を図っている。</p> <p>○古典学習の導入を工夫し、写真やイラストを多く用いて、伝統的な言語文化・芸能に触れながら、現代の日常生活と結びつけながら学習できるようになっている。</p>		
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○単元に「読み方を学ぼう」を設けて、課題の解決方法や思考のポイントを図解やモデリングで示している。</p> <p>○「学びの道しるべ」では、段階的に繰り返しをしながら、単元の「目標の確認・内容理解・思考の変化」を図っている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○1学年に「三角ロジック」「三角ロジックで論理的思考力を鍛えよう」などの論理的思考力、説得性のある表現力を身に付けさせるための教材を配置して、対話や話し合いなどの共同的な言語活動の場を設けている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各教材に学習の目標を示している。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では「学習を振り返る」、「読むこと」では、「学びを広げよう」を設けて、生活に生かす手立ても示している。</p> <p>○「私の本棚」で関連する図書の紹介をしている。</p> <p><言語感覚を豊かにする工夫></p> <p>○「学びの道しるべ」において、課題解決のためのキーワードを示している。</p> <p>○「学びを広げよう」では、即興劇や対話劇も取り上げている。</p> <p>○「ことば発見」を系統的に掲載している。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○伝統的な言語文化に関わる教材として、古典作品を掲載するとともに、資料編で「落語」「歌舞伎の世界」「能・狂言の世界」を取り上げている。</p>	
	資料	<p>○巻頭に「領域別教材一覧」を6ページにわたり掲載して、付けたい力と言語活動例が示されている。</p> <p>○巻末に「読書の広場」「考える広場」「参考資料」が示され、補充学習・発展的な学習を意識した教材を掲載している。</p> <p>○1学年の参考資料の中に「手紙・はがき・メールの書き方」を提示している。</p>	
	表記・表現	<p>○新出漢字を脚注に1文字ではなく、1語として掲載している。</p> <p>○参考資料「〇年生で学ぶ漢字辞典」では、筆順・部首とともに多くの用例を掲載している。</p> <p>○脚注に絵や図が、多く示されている。</p>	
総括	<p>○1学年と2学年は7単元、3学年は6単元の本編と資料編で構成されている。</p> <p>○「読むこと」では、「学びの道しるべ」として「内容を整理しよう」「考えを深めよう」「学びを広げよう」と3段階の学習課題を示している。</p> <p>○「読み方を学ぼう」では、何をどのように読み進めれば、力が付くのかを図解で示すとともに、言語活動の場面とも関連付けて説明している。</p>		

項目	書名 伝え合う言葉 中学国語 17 教出
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○本編は、テーマごとに7～8の単元で構成されていて、各学年の目標と内容、言語活動例がバランスよく配置されている。</p> <p>○様々な伝え合う力を育成するための教材が、設定されている。</p> <p>○古典教材を「読むこと」と「伝統的な言語文化」の両方の視点からに系列化して、視覚資料やコラム教材を設定している。</p>
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」には、「学びの重点」を設けて、身に付けたい学習内容を示している。「活動のポイント」を例文にあげ、表現の仕方や表現方法を学ばせるようにしている。</p> <p>○「読むこと」では、「みちしるべ」を提示して、学習の進め方や重点をまとめている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「読むこと」では、「確かめよう」「深めよう」「考えよう」と段階的に学習を深めるように設定している。</p> <p>○所々にある「ここが大事」では、学習の重点を示している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各教材の「みちしるべ」には、目標と振り返りを示している。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「学びを生かそう」を掲示して日常に生かせるようにしている。</p> <p>○「読むこと」では、「読んでみよう」で、関連する図書を紹介している。</p> <p><言語感覚を豊かにする工夫></p> <p>○コラム「言葉と仕事」では、一流のスポーツ選手と言葉のつながりを意識させる内容である。</p> <p>○「四季のたより」「漢字の広場」など、生徒の興味・関心を高める工夫がある。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○伝統的な言語文化に関わる教材として、多くの古典作品を掲載するとともに、古典と現代とのつながりを考えさせるために「蜘蛛の糸」などを取り上げている。</p>
資料	<p>○巻頭に「言葉」をテーマにした文章を掲載している。</p> <p>○「この教科書の使い方」に教材ごとの言語活動例や学習内容の重点が示されている。</p> <p>○学びのヒントや補充学習を意識した巻末に「言葉の自習室」がる。</p>
表記・表現	<p>○写真や図が多いし、脚注の絵や図がカラー印刷されている。</p> <p>○新出漢字と小学校6学年で学習した漢字の用例と筆順がまとめて示してある。</p> <p>○巻末に「理解や表現に役立つ言葉」「学習に必要な用語」の索引がある。</p>
総括	<p>○1学年・2学年は8単元、3学年は7単元、言葉と文法、漢字、言葉の自習室で構成されている。</p> <p>○「読むこと」では、「確かめよう」「深めよう」「考えよう」の3段階で課題解決を図るように示されている。</p> <p>○「学びのチャレンジ」では、思考力・判断力・表現力などを高めるための教材の発展的な課題を設定している。</p>

書名 項目	国語 38 光村
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びをひらく」「言葉をつなぐ」「いにしへの心にふれる」など学習に関わるキーワードを中心に7単元・資料・付録で構成されている。 ○発達の段階を踏まえて、習得と活用をくり返しながら国語を学習させ、着実に力が身に付くように系統を図った教材を配置している。 ○特設のページ「季節のしおり」を設定し、主体的に言葉に関わるような姿勢や、古典の世界にも興味・関心をもたせるようにしている。
特色 内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材には、「学習」を設け、「目標」「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」の3段階の課題解決を図っている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「次へつなげよう」を示し、学習を振り返りながら、「生活に生かす」視点を設けている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」では「学習の窓」を設けて、活用的な言語活動や学習の重点を提示している。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、生徒同士の交流を意識した取り組みを配置している。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「効果的な学習のために」や「学習の見通しをもとう」を設け、学習のポイントを示している。「読むこと」では、関連する図書を紹介している。 <p><言語感覚を豊かにする工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「参考にしたい表現」や「感想を表す言葉」などを示している。 ○「季節のしおり」で季節のこよみや詩を紹介している。 ○「読書コラム」や「読書案内」に多くの図書が紹介されている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝統的な言語文化に関わる教材として、古典作品を掲載するとともに、1学年の教材に「月に思う」を取り上げ、現代とのつながりを意識させている。また資料集の中に「古典落語」を掲載している。
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に、「この教科書で学習するみなさんへ」として教科書の使い方を示し、また、「学習の見通しをもとう」では、領域別の一覧があり、教材ごとに学習内容と学習活動が示されている。 ○巻末に1年間に学習する新出漢字がまとめて示され、筆順や熟語、短文が数多く示されている。また「学習のための用語一覧」を索引として示している。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に落ち着いた色遣いで、関連事項を脚注に絵や地図、写真で紹介している。 ○新出漢字も1文字ではなく1語として脚注に示している。 ○本編の各単元だけでなく、「書く」「話す・聞く」の教材にもインデックスがある。また「資料編」にもインデックスがある。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年とも7単元と巻末の文法・漢字・資料・付録で構成されている。 ○「読むこと」では、「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」の3段階で課題を提示して、「学習を振り返る」で生徒の学習を確認させるようになっている。 ○言語活動で身に付けた言葉の力を日常生活等で生かせるように「生活に生かす」「他教科に生かす」を設けている。

書名		新編 新しい書写	2 東 書
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<p>○楷書や行書などの文字を整えて書くためのポイントが、視覚的に示してある。</p> <p>○書写の学習を生活に関連付け、目的や必要に応じて楷書や行書を選択させるための話し合い活動を取り入れている。</p> <p>○学校生活等に実際に生かせる手書きのよさが、さまざまな資料を掲載することで伝わる。</p>	
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○教材ごとに「学習の目標」が示されて、「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「書くときのポイント」「学習のポイント」が設けられ、確認しながら学習が展開できるようになっている。</p> <p>○毛筆では、穂先の動きが濃淡のある朱墨で示してある。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○学習の取組において、「目標と課題の確認」「課題解決のための練習」の過程に重点がおかれ、「しょしゃのつぼ」やスー・トン・ピタというキャラクターにより解説がなされて、課題を意識しながら学習できるようになっている。</p> <p>○毛筆の学習後に、関連した硬筆教材を配置し、関連させながら学習に取り組みせるように構成してある。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○巻頭の「学習の進め方」では、学習の目標と自分の課題を確認する。→課題を解決するために練習する→振り返る→活用する・発展 という流れが示されている。</p> <p>○「振り返る」の部分では、自己評価したり、生徒同士で評価し合ったりできるようになっている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○各学年に「生活を豊かにする文字」という単元を設け、手紙や掲示物、職場訪問、防災訓練などの取組を題材に、学校生活等と書写の関連を図っている。</p> <p>○毛筆の学習を通して、トメ・ハネ・ハライなどの書き方を身に付けて、その後「広げよう」という教材で硬筆との関連を図っている。</p>	
	資料	<p>○写真や原寸大のイラスト等を使って「姿勢・筆記具の持ち方」を解説している。</p> <p>○巻末の「資料」に「いろいろな書式」「漢字の成り立ち」「古典作品」「書き初め」「季節の言葉」を写真や解説を交えて掲載している。</p> <p>○「常用漢字表」「人名用漢字表」は、楷書と行書を併記している。</p>	
	表記・表現	<p>○毛筆手本の中心を▼▲記号で示している。筆使いのポイントをトン（始筆）・スー（送筆）・ピタ（終筆）と表記して、リズムの感覚でとらえるようになっている。また、かなの筆順も示している。</p> <p>○ガイド役のキャラクターが、目標や進め方、振り返りを案内している。</p>	
総括		<p>○A Bの判型である。</p> <p>○巻頭の「学習のはじめに」で、「これから学ぶこと」を示し、「姿勢・筆記具の持ち方」が大きな写真イラストで示されている。</p> <p>○毛筆で学んだことを硬筆で確認・発展させるような構成になっている。また、「書くときのポイント」を参考に書くようになっている。</p> <p>○書写を日常の生活に生かすように「しょしゃのつぼ」「しょしゃのたね」で関連する内容を紹介している。</p>	

書名		中学校 書写	11 学 図
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○始筆・終筆・筆脈を点線や矢印で示して、楷書や行書の違いやかなの書き方を言葉によって解説をしている。</p> <p>○楷書と行書を使い分けができるように、それぞれを書く場面を設定し、写真による資料を掲載している。</p> <p>○「書写の窓」では、文字の歴史に触れ、「なぜ毛筆を学ぶのかなど」現代の私たちの使っている文字につながっていることを示している。</p>		
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○教材ごとに「目標」がタイトルとして示されている。手本の多くには、中心線などが引かれ、文字のバランスを身に付けさせるようになっている。</p> <p>○毛筆では、穂先の動きが濃淡の朱墨により示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年の取組が段階を追うように単元立てていて、ねらいを意識させながら取り組むように構成されている。また、文字の字形を整えて書くことを重視している。</p> <p>○写真や図による手本を提示し、自分の文字と比べながら取り組ませるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○巻頭の「学習の進め方」には、試し書き→練習→まとめ書き→硬筆で書く という流れが示されている。</p> <p>○練習の後には「振り返って…」が示され、学習の目標に対して自己評価できるようになっている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○毛筆の学習の後に、「硬筆で書いてみよう」と両者の関連が意識されるようになっている。「ここに気をつけよう」では、文字を書く際のポイントが示され、練習するようになっている。</p> <p>○3学年の最後には「書写をいかそう」という単元を設け、手紙・教科の新聞・寄せ書き・ポスターなど学校生活等との関連を示している。</p>	
	資 料	<p>○巻頭に「書くときの姿勢」「腕の構え方・筆の持ち方」「筆の各部の名称・働 き」を写真イラストで解説している。</p> <p>○各学年の最後には「書き初め」を示し、巻末の「資料編」には、「楷書のいろいろな書き方」を示している。</p> <p>○「漢字一覧表」には、常用漢字を行書体で掲載している。</p>	
	表記・表現	<p>○毛筆手本の中心を▼▲記号で示している。手本と別に中心線や筆使いのポイントを記号・点線・濃淡・穂先の図で示している。</p> <p>○毛筆の手本は半紙の原寸大で掲載している。</p> <p>○ガイド役のキャラクターが、学習のポイントを示している。</p>	
	総 括	<p>○B5変型の判型である。</p> <p>○毛筆の主な手本を見開き2ページで示している。学習の目標や振り返りのポイントを簡潔に示し、毛筆で学んだことを硬筆でも生かすように構成されている。</p> <p>○書写の学習を生活に生かすための学習は3学年でまとめて取り組ませるようになっている。</p> <p>○「書写の窓」では、鑑賞すべき作品や発展的な学習内容を紹介している。</p>	

書名		現代の書写	15
項目			三省堂
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○筆使いを朱墨と薄墨で示している。筆の穂先・軸・筆圧についてもポイントを写真や図により解説している。 ○楷書と行書の違いやどのように使い分けるかなど、話し合わせて効果的な使い方を意識させるような言語活動例を示している。 ○現代の生活の中に存在する「書くこと」の文化が紹介され、手書き文字のよさが伝わる資料が掲載されている。 	
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「目標」が示されている。「考えよう・話し合おう」を設けている。 ○毛筆の筆使いでは、筆圧や穂先の動きを濃淡のある朱墨等で示している。 ○毛筆の学習に際し、硬筆で文字の間隔やバランスを確認するようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元とも「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」という流れで構成している。 ○キャラクターが、書く際のポイントを解説している。 ○1・2学年は2回、3学年は1回の「生活に生かそう」という単元を設定し、場面や目的に応じた書体・筆記具等を選んで書く力を育成するようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「学習の流れ」には、学習の見通しをもつ→学習する→復習→学習を生かして主体的に書く という学習の流れを示している。 ○「振り返ろう」では、学習の目標にあわせて、自己評価できるようになっている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活に生かそう」「効果的に書こう」の単元を設け、行事への取組を通して書写と生活の関連を掲載している。 ○毛筆で学習した後に、「書いて確かめよう」として硬筆の教材を設定して、関連を図っている。 	
	資料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「望ましい姿勢と筆記具の持ち方」を写真やイラスト使って、望ましくない持ち方との比較をしながら示している。 ○巻末の「資料編」には、「日常の書式」「文字の変遷・文房四宝」「書き初め」「自分の文字」を掲載している。また文字や書に関する資料が写真や図とともに解説を伴って掲載されている。 ○「楷書・行書一覧表」は、常用漢字を小・中学校別に示している。 	
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆手本の中心を▼▲記号で示している。筆使いのポイントを記号・点線・濃淡・穂先の図で示している。かなの筆順も示している。 ○文字の整え方について例を示しながら、話し合う場を設けている。 ○ガイド役のキャラクターが、学習のポイントを示している。 	
総括		<ul style="list-style-type: none"> ○B5の判型である。 ○各単元の学習の初めに「考えよう・話し合おう」という活動を設定している。また、毛筆で学んだことを硬筆で復習し、生活に生かすように構成されている。 ○見開き2ページの右に指導事項、左に手本という構成になっている。 ○3学年では、「三年間で学んだ書写技能」が掲載され、中学校のまとめができるようになっている。資料にもさまざまな「日常の書式」を紹介している。 	

書名		17 教 出	
項目	中学書写		
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○穂先の写真や点線、筆順を示す数字により、始筆・送筆・終筆の仕方がわかるようになっている。 ○楷書と行書の使い分け、用具・形式・書き表し方を目的や内容に応じて工夫するように話し合う活動例が示されている。 ○写真や図、作品例により、取組等の解説をしている。学習したことを日常生活に生かすための資料が紹介されている。 		
特色	特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「目標」を示している。また、「なぞり書き」を設けて、文字のバランスを身に付けるようになっている。 ○毛筆では、基本的な点画や題字ごとの筆順、穂先の動きを濃淡のある朱墨で示している。硬筆で試し書きをした後に、毛筆での書き方を学習するようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも段階を経ての単元構成になっている。各資料には解説を加え、課題意識をもって取り組ませようとしている。 ○授業や社会生活に関連した写真や資料などを解説とともに掲載し、参考例と比べながら習得した技能等を活用させる機会を設定している。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「学習の進め方」では、目標を確かめよう→試し書きをしよう→考えよう→生かそう→振り返ろう→学習や日常生活に生かそう と示されている。 ○「振り返ろう」では、目標に即して自己評価できるようになっている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習を生かして書く」の単元を設け、原稿用紙やレポート形式、手紙、ポスター、案内状など、生活と書写との関連を図っている。 ○毛筆で学んだことを他の文字に生かして書くことを意識させる「生かそう」の段階を設け、毛筆と硬筆の関連を図っている。 	
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「姿勢と用具の使い方」「用具の置き方」では、後片付けまで写真を使って説明している。 ○各学年の最後に「書き初め」を、巻末に「資料」配置している。資料では、「書式の教室」「補充教材集」を掲載している。 ○「漢字一覧表」は、常用漢字を小・中学校別、部首別に行書体で掲載している。 	
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆手本の中心を点線や記号で示している。筆使いのポイントが記号・点線・濃淡・穂先の図で示してある。かなの筆順を示している。 ○振り返りでは、評価のポイントを示してある。ガイド役のキャラクターが、学習のポイントを紹介している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○B5の判型である。 ○巻頭の「目的に合わせて書こう」で「書く目的」ごとに「どのような力を身につけるか」を示している。各学年の初めに改めて目次を掲載している。 ○見開き2ページの右に毛筆手本、左に「目標」「考えよう」等の学習項目を示している。書写で学習したことを生活に生かす学習は、2学年の単元としている。発展的な内容や資料も教材と教材の間に配置し、著名な人物の肉筆も紹介している。 		

書名		38 光村
項目	中学書写	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○穴埋め形式により、文字を書く上でのポイントを理解させるようになっている。 ○楷書と行書の使い分けが適切にできるように、写真や絵を用いて、理解が深まるようにしている。 ○文字文化への理解を深めるためのコラムが掲載され、手書き文字のよさを伝えるための学習や生活に役立つ資料を写真や図によって示している。
特色	特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「目標」を示している。「なぞり書き」や書き込み式で確認しながら、文字のバランスを身につけさせるようになっている。 ○毛筆では、点画の種類と筆使いについて数字を用いて筆圧を示し、濃淡の朱墨で穂先を示している。毛筆を学習した後、硬筆を練習させるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書に文字を書く上でのポイントを記入させたり、手本を見ながら練習する欄を設けたりすることで、考えながら習得させるようになっている。 ○「資料」編では、他の授業でも活用できるものや生活に関連したものを写真や図で掲載し、学んだことを生かせるようにしている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「学習の流れ」では、学習の見通しをもつ→学習・活動に取り組む→学習を振り返る と示している。 ○「学習を振り返る」では、目標と照らし合わせて自己評価できるようになっている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「日常の書式」では、手紙や入学願書など具体的な題材を取り上げ、「活用のヒント」では、マッピングやレポート、体育祭の応援旗、新聞の書き方など、生活と書写の関連を図っている。 ○毛筆の学習後に、硬筆教材を配置し、関連を図っている。
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「書くときの姿勢」「筆記具の持ち方」「片付け」など写真を使って解説をしている。 ○巻末の「資料編」には生活と書写を関連づけた資料が多く掲載され、各学年の単元末には、コラム欄があり、写真や図により文字への興味関心を高めている。 ○「常用漢字一覧表」と「部首別行書一覧」は、楷書と行書を併記している。
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の手本の中心を記号で示している。筆圧を数字で、筆使いをトン（始筆）スー（送筆）トン（終筆）と表記している。また、点線・濃淡・穂先を図で示している。 ○学習目標と振り返りを別の枠で示して、○△で自己評価させている。 	
総 括		<ul style="list-style-type: none"> ○B5の判型である。 ○見開き2頁に教材がまとめられている。毛筆で学習したことを硬筆で生かせるような構成になっている。「学習の窓」で基礎基本を身につけるヒントが掲載されている。「コラム」欄では、書写に関する知識や硬筆による楷書・行書を書かせるようになっている。「資料編」では、「日常の書式」など、書写で学んだことを生活に生かすヒントをまとめている。